



平成 17 年 5 月 20 日

各 位

ラ オ ッ ク ス 株 式 会 社
代 表 取 締 役 社 長 本 多 利 範
(コード番号 8202 東証第 2 部)
問 合 せ 先 常 務 執 行 役 員 島 田 嘉 夫
管 理 本 部 副 本 部 長
(電話 03-5297-3830)

業績の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 17 年 2 月 25 日の「第 3 四半期財務・業績の概況」発表時に公表した平成 17 年 3 月期(平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 17 年 3 月期連結通期業績予想数値の修正(平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	132,000	630	12,000
今回修正予想(B)	129,000	1,085	11,000
増減額(B-A)	3,000	455	1,000
増減率(%)	2.3	-	-
(ご参考) 前期実績(平成 16 年 3 月期)	155,147	273	4,629

2. 平成 17 年 3 月期個別通期業績予想数値の修正(平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)

(単位:百万円、%)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想(A)	123,000	25	12,000
今回修正予想(B)	118,700	418	11,720
増減額(B-A)	4,300	443	280
増減率(%)	3.5	-	-
(ご参考) 前期実績(平成 16 年 3 月期)	143,719	111	4,970

3. 修正理由

(1) 連結業績予想の修正

不採算店舗 22 店舗の閉鎖により、売上高が下振れを起こしております。また、粗利面では、競合他社との熾烈な価格競争のため、及び来期以降の黒字体質を確立するために不稼働商品を排除すべく積極的な処分価格を一時的に設定した事などにより、粗利率が低下しております。

なお、販売費及び一般管理費は前年度に較べて 2 割超の節減を果たしたものの、支払利息や新株発行費、雑損失等が増加しており、経常利益も当初予想を下回りました。但し、固定資産売却損や店舗整理損などの特別損失額は、予想の範囲内で納まった結果、当期純損失は前回発表予想額以内の着地になる予定であります。

(2) 個別業績予想の修正

連結業績予想と同様の理由によるものであります。

4. 今後の政策

当社グループは、今後の黒字化体質を確立するため、平成 17 年 3 月期中に下記のような諸施策を実施して参りました。その効果が、今後は如実に顕在化して来るものと確信しております。

記

財務体質の強化のため、平成 16 年 11 月に第三者割当増資による 32,730 千株の新株式発行及び 2,270 千株の自己株式を売却しました。この結果、増資資金の内、3,338 百万円を資本に組み入れ、増資後資本金が、19,011 百万円となりました。

これに関連して、社外から新しい経営陣を 4 名迎え入れ、平成 17 年 2 月 16 日開催の臨時株主総会において、取締役役に選任されました。また、平成 17 年 5 月 1 日付で、代表者の異動を行い、経営体制を一新いたしました。

次に、子会社を含めたグループ全体として、店舗として活用していない保有物件を売却し、売却代金 130 億円などを有利子負債返済に充当させ、連結有利子負債残高は、前期末約 392 億円から、当期末 200 億円へと大幅に圧縮いたしました。

さらに、この有利子負債残高につきましては、全額をシンジケートローンに置き換えるべく協調融資団との間で、3 月 18 日に調印いたしました。

店舗の概況といたしましては、不採算店舗の積極的な閉鎖により、赤字発生要因を大幅に減少させるべく、直営店 6 店舗、子会社・関連会社で 16 店舗の合計 22 店舗を閉鎖いたしました。

不稼働商品の排除を徹底させ、商品在庫効率を向上させました。

以上